61908697 佐々木良輔

(1)

まず1次元の周期境界条件

$$\psi(x+L) = \psi(x) \tag{1}$$

を考える. 一次元の Schrödinger 方程式はポテンシャル V(x)=0 のとき (2) 式である.

$$-\frac{\hbar^2}{2m}\frac{\partial^2}{\partial x^2}\psi(x) = \varepsilon\psi(x) \tag{2}$$

この解は定数 A, B を用いて以下のようになる.

$$\psi(x) = A e^{ikx} + B e^{-ikx} \tag{3}$$

$$k = \sqrt{\frac{2m\varepsilon}{\hbar^2}} \tag{4}$$

(1) 式から

$$Ae^{ik(x+L)} + Be^{-ik(x+L)} = Ae^{ikx} + Be^{-ikx}$$
 (5)

$$Ae^{ikx}(1 - e^{ikL}) = Be^{-ikx}(e^{-ikL} - 1)$$
 (6)

これが任意の A, B について成立するため

$$e^{\pm ikL} = 1 \tag{7}$$

$$\therefore k_n L = 2\pi n \qquad (n \in \mathbb{Z}) \tag{8}$$

を満たす. したがって解 $\psi(x)$ は離散的な値を取るのでそれを $\psi_n(x)$ とすると

$$\psi_n(x) = C e^{ik_n x} \tag{9}$$

となる. ここで $n \in \mathbb{Z}$ としたことから A, B を C と置き直した. またエネルギー固有値 ε_n は

$$\varepsilon_n = \frac{\hbar^2 k_n^2}{2m}$$

$$= \frac{2\pi^2 \hbar^2 n^2}{mL^2}$$
(10)

$$=\frac{2\pi^2\hbar^2n^2}{mL^2} \tag{11}$$

となる.

次に3次元での周期境界条件

$$\begin{cases} \psi(x+L,y,z) = \psi(x,y,z) \\ \psi(x,y+L,z) = \psi(x,y,z) \\ \psi(x,y,z+L) = \psi(x,y,z) \end{cases}$$
(12)

を考える. 波動関数に変数分離形, すなわち

$$\psi(x, y, z) = X(x)Y(y)Z(z) \tag{13}$$

を仮定すると各方向について1次元と全く同様の議論を行えばいいので波動関数は

$$\psi(x,y,z) = C e^{i(k_x x + k_y y + k_z z)}$$
(14)

$$= C e^{i\boldsymbol{k}\cdot\boldsymbol{r}} \tag{15}$$

ただし

$$\begin{cases} k_x = \frac{2\pi}{L} n_x \\ k_y = \frac{2\pi}{L} n_y \\ k_z = \frac{2\pi}{L} n_z \end{cases}$$
 (16)

$$\mathbf{k} = (k_x, k_y, k_z) \tag{17}$$

である. また各方向でのエネルギー固有値 $arepsilon_x,\,arepsilon_y,\,arepsilon_z$ は (10) と同様に

$$\begin{cases} \varepsilon_x = \frac{2\pi^2 \hbar^2 n_x^2}{mL^2} \\ \varepsilon_y = \frac{2\pi^2 \hbar^2 n_y^2}{mL^2} \\ \varepsilon_z = \frac{2\pi^2 \hbar^2 n_z^2}{mL^2} \end{cases}$$
(18)

となるので、エネルギー固有値 ε は

$$\varepsilon = \frac{2\pi^2 \hbar^2}{mL^2} (n_x^2 + x_y^2 + n_z^2) \tag{19}$$

となる.